

医学教育分野別評価

岐阜大学医学部医学科

年次報告書

2024（令和 6）年度

評価受審年度 2021（令和 3）年

2024 年 8 月

岐阜大学医学部

医学教育分野別評価 岐阜大学医学部医学科 年次報告書
2024（令和 6）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和 3）年度

受審時の医学教育分野評価基準日本版 Ver. 2. 33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、2021 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022 年 10 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次回の受審までに改善に努める予定である。今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、2024 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023 年 4 月～2024 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

本学医学部医学科では、医学教育分野別評価（2 巡目）受審後に「認証評価対応会議」を設置し、医学教育分野別評価における指摘事項に対する検討、実施及び進捗管理を行うこととした。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命を、学生や教員など教育の関係者が十分理解できるように明示すべきである。
- ・ 医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を十分に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命については、初期体験実習に参加する学生及び見学先である外部の医療と保

健に関わる施設に対し、意識して記載した説明文を作成し周知した。

医学部憲章及び 3 つのポリシーの見直しを行う予定である。教育プログラム評価委員会を通じて外部の意見を聴取する機会を設け改善に繋げる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B1. 1-1 初期体験実習学生説明用資料
- ・ 資料 B1. 1-2 初期体験実習施設説明用資料

1.3 学修成果

基本的水準

特色ある点

- ・ 使命としての医学部憲章に基づいて学修成果を定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果はシラバスやホームページに掲載されているが、学生や教員に十分に浸透させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部憲章・使命等について、教員・学生にアンケートを実施し、その結果を企画委員会、教務厚生委員会及びカリキュラム委員会で審議する予定である。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒後臨床研修終了時の学修成果として「初期臨床研修の行動目標」をシラバスに記載しているが、現行の「臨床研修の到達目標（2020 年度版）」を明示して卒業時の学修成果と関連づけることが望まれる。
- ・ 医学研究に関して目指す学修成果をより明確に定めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

シラバスについては PDF 化を行い、ポートフォリオについては B6 サイズの小型化を実現した。

授業案内上巻・下巻を HP に掲載した。授業案内上巻・下巻をまとめて Web シラバス化する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-1 授業案内 2023 上巻
- ・ 資料 Q1.3-2 授業案内 2023 下巻
- ・ 資料 Q1.3-3 小型化した「臨床実習ポートフォリオ」

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と学修成果の策定には、学生や教職員など、教育にかかわる主要な構成者が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生自治会の幹部と医学教育開発研究センター長が、岐阜大学が目指すところについて懇談会を1回行った。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と目標とする学修成果の策定には、他の医療職、患者代表など、広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部憲章・使命等について、教員・学生にアンケートを実施し、その結果を企画委員会、教務厚生委員会及びカリキュラム委員会で審議する予定である。

2. 教育プログラム

2.2 科学的方法

基本的水準

特色ある点

- ・ 「テュートリアル選択配属」や約 30 人が参加している「学生研究員制度」に

よって科学的手法の原理や医学研究の手法を教育していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 全診療科の臨床実習において EBM の活用を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

脳神経内科ポリクリにおいて EBM の 5 つのステップを経験させる本格的な EBM トレーニングを開始し、実習 1 週目において問題リストの発表、2 週目には CQ に対する検討の発表会とフィードバックを実施した。

今後、全診療科に対して EBM を活用するよう働きかける予定である。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 東海国立大学機構に経営統合した名古屋大学と教育の共用化を実施しており、生化学、脳神経内科、ライフサイクル授業などのカリキュラムに参加できる機会がある。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

名古屋大学脳神経内科との共有化の 3 年目を新しいテーマ「臨床倫理」と「認知症への抗体療法」で実施した。先進的な取り組みとして注目され、日本神経学会における IT 活用事例の教育モデルとして、学会員に紹介された。

東海国立大学連携ワーキンググループにより 4 つの講座間での連携のためのミーティングが教員と教務系職員が参加し開催され、今後の活動の連携を検討した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 2-1 東海国立大学連携WG担当者一覧

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 6年間を通じて行動科学や医療倫理学の教育を体系的に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

脳神経内科では3年生、5年生、6年生に対し、継続的に「医師の職業倫理」「研究倫理」「臨床倫理」に対する講義及び臨床実習を日本臨床倫理学会上級認定士の2名が中心となって実施した。

地域医療に関して、社会医学や医療人類学的な視点より、1年生では医学概論で地域医療と医療人類学、5年生では臨床講義の「地域医療」授業で臨床実習における様々な出来事を人類学的な他者の視点での自己分析を行動科学の部分も踏まえて実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 4-1 令和 4-5 年臨床講義日程表
- ・ 資料 B2. 4-2 令和 5-6 年臨床講義日程表

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 科学技術や臨床医学・医療の進歩、将来の予測、人口動態や文化の変化などを考慮して、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを調整、修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改訂コアカリキュラムの内容を踏まえて、GE や IT の資質能力を導入する「地域医療体験実習」を1年生に導入した。

名古屋大学との連携を強め、初年次初期体験実習における生命倫理に関する共同授業をブラッシュアップして継続開催し、拡充に努めている。

医療倫理学の講義において、腎・透析治療のガイドラインを扱うなど最新の医療情勢を反映させる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 4-1 2023 年度初期体験実習事前ガイダンス
- ・ 資料 Q2. 4-2 2023 年度初期体験実習

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特色ある点

- ・ 研修医が「屋根瓦形式」によって臨床実習における学生の指導に参加している。

改善のための助言

- ・ 一部の診療科では診療参加型臨床実習が実践されているが、全診療科において診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ・ 学生が医療チームに参加して臨床実習を行うために、電子カルテの記載法を改善すべきである。
- ・ 全学生に対して主要な診療科での臨床実習期間を十分に確保すべきである。
- ・ プライマリ・ケアを臨床実習で経験させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

脳神経内科の実習を2週間に改訂したところ、担当症例を2週間しっかり学ぶ事ができたことに加え1EBMの実践（CQの設定、文献検索、CQの回答の作成と発表）が高いレベルでできるようになった。

臨床実習ポートフォリオの小型サイズ化により、携帯性を向上させた。情報共有化についてはLMSの変更により、現在検討中である。さらに診療参加型臨床実習の促進のため、バーチャル教育の導入やシミュレーターの整備を行った。具体的には不足していた導尿シミュレーターや咽頭ぬぐいモデル、診察モデルが新規追加購入され、実習に使用した。

岐阜大学近隣の在宅医療を専門とするクリニックを、プライマリ・ケアを学べる場としての協定実習先として確保できたため、5年生と6年生の選択臨床実習を開始し学生を派遣した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-3 小型化した「臨床実習ポートフォリオ」
- ・ 資料 B2.5-1 学内臨床実習ローテーション実施表
- ・ 資料 B2.5-2 選択臨床実習機関一覧

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 早期体験実習や地域体験実習により、1年次にすべての学生が学外施設で障がい者や高齢者などと接する機会がある。

改善のための示唆

- ・ 科学、技術、臨床の進歩に関するカリキュラムの調整、修正を担当教員に一任するのではなく、医学部全体として課題を特定し、教育改善につなげることが望まれる。
- ・ 1年次だけでなく、全学年で段階的に臨床現場での患者診療への参画を深めていくことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1年次の実習施設の内容の見直しと共に、高学年 5、6 年次の実習施設についても検討し、説明会において学習目標を明示化した。

現状把握のための授業アンケート実施について学生自治会とも議論し主体的にアンケートを実施したい意向を聴取できた。

教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会で継続的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.5-1 初期体験実習施設の見直し
- ・ 資料 Q2.5-2 選択臨床実習

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 1巡目の評価で助言された水平的統合の促進について、テュートリアルコースを中心に進めている。

改善のための示唆

- ・ 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに推進することが望まれる。
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療には行動科学及び社会医学、臨床医学の視点が含まれており、文部科学省の補助事業であることを踏まえ、医療人類学的な視点の授業展開を 1, 2, 4, 5 年次に導入した。本事業は名古屋大学の教員が参画し教育連携を図っている。

教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会で継続的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.6-1 カリキュラム体系図
- ・ 資料 Q2.6-2 医学概論講義日程

2.7 教育プログラム管理

基本的水準

特色ある点

- ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の構成委員に、各学年の学生代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ カリキュラム委員会を定例化して十分な役割を果たすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各委員会のメンバーの人数を鑑み、教務厚生委員会、カリキュラム委員会、さらにプログラム評価委員会の委員長も合同で教務厚生委員会を開催する体制に改編し、活発な意見を創る体制とした。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの立案と実施に権限を持つ委員会に、広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

関連病院長会議での教育プログラムの周知協力と共に関連病院の指導医に FD セミナーを実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.7-1 選択臨床実習 F D ・ 担当者説明会

2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「地域医療医学センター」、「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」、医学部同窓会を通じて情報収集を行っている。

改善のための示唆

- ・ 卒業生や地域、社会の意見を取り入れて、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行政（県、市町村）、医師会、関連病院の協力による FD セミナーを年 2 回行い、情報共有と共に問題点の解決の方策を検討している。

学外実習協力施設は学内の臨床実技試験の評価者になり、問題点の確認を行っている。

地域医療医学センター、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム、医学部同窓会等で得られた地域・社会・卒業生の意見を文書化し、教育プログラム評価委員会やカリキュラム委員会でも情報共有する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.8-1 Post-CC OSCE 評価者派遣依頼（学外）
- ・ 資料 Q2.8-2 Post-CC OSCE 評価者派遣依頼（学内）
- ・ 資料 Q2.8-3 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムに関する設置要綱
- ・ 資料 Q2.8-4 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム概要図
- ・ 資料 Q2.8-5 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム組織図
- ・ 資料 Q2.8-6 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム組織運営委員会名簿
- ・ 資料 Q2.8-7 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム企画調整委員会名簿

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 態度評価を適切に実施すべきである。
- ・ 評価方法や合格基準の詳細をすべてのコースで明示すべきである。
- ・ 評価は出題者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 疑義申し立て制度をすべての評価に導入すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

履修登録システム、期限についての周知方法及び単位登録の確認について委員会で検討し、学生に周知する。

臨床実習 e ポートフォリオの開発を進め態度などの把握と評価の準備体制を構築し続けている。

6 年間を通じて学生の態度評価を行うことについては、導入予定の e-ポートフォリオにて、アンプロフェッショナルな学生の情報を低学年から蓄積させ、情報共有することとした。

1・2 年次の実習にて単位が取得できなかった場合、仮進級ではなく、翌年も再度履修するように規則を改訂し、態度評価含めた評価について厳格に再教育できる体制を整備した。

選択臨床実習中の態度が悪い 5・6 年次の学生に対して適切な指導を行うため、「選択臨床実習に関する要項」（欠席する場合のルール、「不可」等の学生への聴取面談、再教育・再履修や留年に関する規定など）を制定した。また「アンプロフェッショナルな学生への対応に関する要項」を改訂し、成績判定や進級判定に用いる際の基準を明示した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 1-1 実習の単位未取得者の仮進級判定の改正
- ・ 資料 B3. 1-2 選択臨床実習に関する要項
- ・ 資料 B3. 1-3 アンプロフェッショナルな振る舞いをする学生への対応に関する要項

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ すべての評価において信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- ・ mini-CEX や 360 度評価などの Workplace-based Assessment を導入することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ポートフォリオ電子化の導入は遅延しているが、小型化に伴い評価ページのフォーマットの共通化を行った。

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

特色ある点

- ・ 卒業試験に統合型試験を導入している。

改善のための助言

- ・ 科目ごとに行われている評価を統轄的に管理して解析するシステムを構築すべきである。
- ・ 学生が経年的、段階的に学修成果を達成していることを保証すべきである。
- ・ 低学年から形成的評価を導入すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ポートフォリオについては B6 サイズの小型化を実現している。OSCE 評価者については課題数の増加に伴い、養成を計画的に行なうようにしている。

e-ポートフォリオ化を意識し、より各コンピテンシーや実習中の経験が評価・チェックできるひな型に改変し導入した。

臨床実習の評価方法（評価法の作成）については、大項目は、医学部のディプロマポリシーに基づいた 4 領域とし、全診療科統一の評価表（5 段階評価）とすることを承認した。小項目は、各診療科で実現可能な評価表を作成することとした。

基本項目と各診療科に特化した内容が評価・チェックできる形式とした。

統合試験は標準的問題作成のためのピアレビュープロセスを強化し、作成システムの導入も図った。臨床実習前及び post OSCE の認定評価者の育成と確保をおこなう、評価と学習の方法を学内教員に周知している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-3 小型化した「臨床実習ポートフォリオ」

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学内臨床実習終了時にポートフォリオ審査会を実施し、学外臨床実習を遂行するのに適した知識・判断力・問題解決力が備わっていることを確認している。

改善のための示唆

- ・ 全学年において態度評価を充実させ、評価結果に基づいた適切なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年間を通じて学生の態度評価を行うことについては、導入予定のeポートフォリオにて、アンプロフェッショナルな学生の情報を低学年から蓄積させ、情報共有することとした。

eポートフォリオの導入に向けて、名古屋大学と連携して検討を進めている。

ポートフォリオの小型化、電子化に伴い利用度が高まり、評価や情報の共有の改善が期待される。

1・2年次の実習にて単位が取得できなかった場合、仮進級ではなく、翌年も再度履修するように規則を改訂し、態度評価含めた評価について厳格に再教育できる体制を整備した。

選択臨床実習中の態度が悪い5・6年次の学生に対して適切な指導を行うため、「選択臨床実習に関する要項」（欠席する場合のルール、「不可」等の学生への聴取面談、再教育・再履修や留年に関する規定など）を制定した。また「アンプロフェッショナルな学生への対応に関する要項」を改訂し、成績判定や進級判定に用いる際の基準を明示した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 1-1 実習の単位未取得者の仮進級判定の改正
- ・ 資料 B3. 1-2 選択臨床実習に関する要項
- ・ 資料 B3. 1-3 アンプロフェッショナルな振る舞いをする学生への対応に関する要項

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特色ある点

- ・ 岐阜県と継続的に協議し、地域医療を活性化するために地域枠の定員を設定している。
- ・ 推薦（地域枠）の「地域医療コース」では市町村長の推薦を受けた者が応募対象となっている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域枠推薦に関しては、面接日を別日程としてよりアドミッションポリシーに適した学生を選抜するようにしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 1-1 令和 6 年度学校推薦型選抜Ⅱ学生募集要項

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

面接方法の再検討により、入学決定プロセスをより明確にした。

本部入試課と連携し、疑義申し立て制度の策定に向けて検討する。

本部入試課、関係する全学委員会等と連携し、全学制度として疑義申し立て制度を策定する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q4. 1-1 面接方法再検討資料

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特色ある点

- ・ 学生定員増に応じて十分に教育できるカリキュラムの編成を行っている。
- ・ 弾力的な教員採用を行い、学生の定員増においても教育の質が低下しないような人事上の方策を講じている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

寄附講座の設置を関連機関と連携して行い、IT や高度がん治療等時代に則した医療人材が育成できるように多様性多職種の教員を雇用するシステムを構築している。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 自治体と協議して入学者の数と資質を定期的に見直している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨時定員による地域枠受け入れ人数については毎年、岐阜県の担当者と大学教員で協議検討している。

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特色ある点

- ・ 指導教員（里親）制度を6年一貫制として取り組んでいる。
- ・ 発達障害の特性を持つ学生への教育をテーマにしたFDが開催されている。

改善のための助言

- ・ 指導教員間で学生支援の格差が大きく、指導教員（里親）制度が実質的に機能するように継続的に改良すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

里親の会を全学年が集まる形で行い、部活以外の上下のつながりを構築し、互いに相談できる環境を継続している。

里親の会を全学年で集まり Teams 上で情報共有できる形式を維持しつつ定期的な面談を継続している。事例を各教授と共有に努めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 3-1 2023 年度医学教育開発研究センター年報（抜粋）

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学修に困難を抱える学生に対し、組織的な支援体制を構築し運用することが望まれる。
- ・ 地域枠学生だけでなく、全学生に対してキャリアガイダンスを行うことが望ま

れる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アンプロ学生に関する学内のルールを改編・明文化し、より明確な評価をできる体制を学生や院外施設に周知することに努めている。

学修に困難を抱える学生に対して、(教務厚生委員会が主体となるだけでなく)指導教員(里親)による六年一貫の継続的な支援が行える体制を整える。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 1-3 アンプロフェッショナルな振る舞いをする学生への対応に関する要項
- ・ 資料 B4. 3-1 2023 年度医学教育開発研究センター年報(抜粋)

4.4 学生の参加

基本的水準

特色ある点

- ・ カリキュラム委員会に学生が正規の委員として参加している。

改善のための助言

- ・ 使命の策定、教育プログラムの管理、教育プログラムの評価、その他学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に続き、令和4年度に新たに立ち上げた「教育プログラム評価委員会」に医学科学生(または卒業生)1名を正規の構成員とすることとし、教育プログラムの企画過程だけでなく、自己点検評価の過程においても彼らからの意見や提案を聴取できる体制を整えた。

教務厚生委員会についても、(二部制にするなど)可能な範囲で学生が参加できる体制を整える。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 4-1 教育プログラム評価委員会細則

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「岐阜救急医療学生研究会(GEMs)」などの学生の活動を奨励している。

改善のための示唆

- ・ 学生のボランティア活動や社会的活動を大学が組織的に支援することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の公式サークルが地元高校生向けセミナーや地域医療に関する地域住民との交流活動に参加し、学会等で活動報告を発表している。コロナ禍の収束により、夏山診療所の開設が再開され、社会貢献活動も実施された。

ぎふ医療ケアサークルや奥穂高夏山診療所など地域医療や社会貢献活動への参加を促している。

新たに制定した「岐阜大学医学部における学生表彰に関する要項」に、社会活動（ボランティアほか社会貢献）についての基準を設けている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q4. 4-1 岐阜大学医学部における学生表彰に関する要項

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特色ある点

- ・ 寄附講座を増設するなどして教員の確保している。

改善のための助言

- ・ 基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の適正数をバランスに配慮しつつ追求すべきである。
- ・ すべての教員の募集と選抜において、教育業績の判定水準を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

企業等からの寄附金により 15 の寄附講座が設置され、31 名の教員を雇用し、医療各分野で活躍している。(R6. 3. 31 現在)

令和 5 年 4 月 1 日以降、若手教員を 7 名採用し、うち 4 名は女性教員であった。時代背景も考慮して、今後さらに充足を図る。

教員採用時に教育担当部分、入試科目担当などをチェックしている。

社会医学特に文化人類学の名古屋大学の教員と協働する連絡体制を作ることができ、教員不足・専門家不足を補うことができる環境にした。実際に 4 年次授業ライフサイクルなどで協働的に授業を遂行している。

女性教員の登用を積極的に行う。

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特色ある点

- ・ 「関門評価」により、教員のモチベーションを高めていることは評価できる。
- ・ カナダ マギル大学における FD に臨床指導医を継続的に派遣し、教育能力の開発に努めていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ FD などを通じ、すべての教員にカリキュラム全体の理解を促すべきである。
- ・ 教員の教育活動を促進するために、教育活動の評価基準を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

OSCE 試験の公的化、評価ステーションの増加に伴い教員の参加回数や外部参加の有無など評価項目に追加した。

海外 FD（マギル大学）の再開、さらに南フロリダ大学とのシミュレーション教育に関する連携締結を強化した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-1 教員個人評価（貢献度実績・自己評価表）の見直し
- ・ 資料 B5. 2-2 海外臨床教育FD実施要項（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-3 海外臨床教育FD参加者名簿（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-4 海外臨床教育FD実施報告書（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-5 南フロリダ大学出張報告
- ・ 資料 B5. 2-6 南フロリダ大学特別公演

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準

特色ある点

- ・ 1 巡目の評価で助言された講義室の狭隘に対し、改修して収容人員増が行われている。

改善のための助言

- ・ 安全な学修環境を担保するために、医療安全講習会や院内感染講習会への学生

の参加を促すべきである。

- ・ 学生定員数を考慮して、解剖実習施設をさらに整備すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

感染症実習を行なえるシミュレーターやマスクテスト装置を購入した。

令和 4 年度から、感染症学の授業 8 コマ程度を臨床推論の授業群に取り入れ、感染症の症例に基づき臨床推論を演習できる科目「臨床推論」に改編した。令和 5 年度もその授業形式を続けており感染症の学習と演習ができる授業編成で継続している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 1-1 授業案内 2023_臨床推論

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ デジタルトランスフォーメーション時代に見合うよう、学修法のデジタル化、シミュレーション教育の充実を進めている。

改善のための示唆

- ・ 学生入学定員増加と 2004 年のキャンパス移転後の変化に対応して学修支援施設・設備の改善が行われているが、今後もニーズに対応してさらに整備・拡充を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

講義室に遠隔授業やオンライン授業がサテライトで行えるシステムが導入され、稼働を開始した。さらに特任助教、教務補佐員、事務補佐員の雇用により、シミュレーションセンターの整備を行った。その結果、バーチャルシミュレーターによる実習も一部の診療科で段階的に開始された。

オンラインチュートリアルを継続しつつ、より効果的な学習が可能になるよう、Teams による資料配布などに各講座で努力をしている。

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特色ある点

- ・ 1 巡目の評価で助言された学生の臨床経験症例をモニタするために、2016 年度から臨床実習ポートフォリオを導入している。

改善のための助言

- ・ 学生が経験する患者数と疾患カテゴリーを確実に把握し、国際標準の臨床経験を量的にも質的にも達成できるよう、臨床実習施設、指導体制をさらに強化すべきである。
- ・ 学生がプライマリ・ケアを十分に経験できるよう、外来診療、初期診療が経験できる臨床実習施設の整備をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内外臨床実習施設に改めて臨床参加型臨床実習の本格的開始について、FD と共に関連病院長会議にて周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.7-1 選択臨床実習 F D ・担当者説明会

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学内外の臨床実習施設の受け入れを検討し、選定している。

改善のための示唆

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応えているかどうかの視点に基づいた臨床実習施設の評価、整備、改善をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内外臨床実習施設に FD を実施（ハイブリッド）。特に評価方法や多職種参加について周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.7-1 選択臨床実習 F D ・担当者説明会

6.3 情報通信技術

基本的水準

特色ある点

- ・ 自己学習のための情報通信技術活用とシステム提供が進められている。
- ・ 「インターネットテュートリアル」で他学部学生や他大学医学部学生とともに PBL スタイルでの Web 授業を行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 電子カルテに関する指針は明記されているが、それ以外の情報通信技術についても指針整備を進めるべきである。
- ・ 情報通信技術を用いた自己学習の実態とアウトカム評価の検討を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

COVID-19 の 5 類移行後も、クリクラ実習中における論文抄読会を ZOOM にて継続し、録画、アーカイブし、他の学生の学習に役立てるとともに、脳神経内科 SNS に学生の同意を得た上で一般への公開を行っている。また、この動画に対する視聴や意見も多く、学生の励みになっている。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 1 巡目の改善の示唆に対応して、学内 LAN や e-ラーニング教材などを活用した「インターネットチュートリアル」、PBL、反転授業などを実施している。
- ・ 学生に対する電子カルテ運用方針を定め、不正使用に係る処分方針も定めている。

改善のための示唆

- ・ 学生が真の診療参加型臨床実習を行えるように電子カルテ記載システムを改良することが望まれる。
- ・ 臨床実習ポートフォリオの電子化や一元管理を進めるなどして、個々の学生の成長をフォローできる仕組みを構築することが期待される。
- ・ 保健医療提供システムへのアクセス体制を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ポートフォリオについては B6 サイズの小型化を実現し、携帯性が高まっている。情報共有については電子化として準備中である。

臨床実習 e-ポートフォリオについては、既存のシステムを活用する方向で検討を進めている。

ポートフォリオの小型化、電子化に伴い利用度が高まり、評価や情報の共有の改善が期待される。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-3 小型化した「臨床実習ポートフォリオ」

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「テュートリアル選択配属（研究室配属）」、「学生研究員制度」、「MD-PhD プログラム」などで研究マインドの涵養を行っている。

改善のための示唆

- ・ 「MD-PhD プログラム」のさらなる拡充について検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生研究員を採用して、早期から研究マインドを醸成している。学生研究員は年々増加傾向にある。

学生の研究マインドの涵養と、さらには大学院進学へとつながるよう、一連の研究支援システムの充実を図る。

6.5 教育専門家

基本的水準

特色ある点

- ・ 医学教育共同利用拠点としての「医学教育開発研究センター（MEDC）」に教職員が数多く配属され、全国的に医学教育の改善に向けた活動を活発に展開していることは高く評価できる。
- ・ 「MEDC」が全国の医学教育関係者に対して多くのセミナー、ワークショップを開催して教育の向上に貢献していることは高く評価できる。
- ・ オンライン授業対策チームと「MEDC」が協力して CyberFD「医学教育 5min」で教育スキルの周知を行っていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ 岐阜大学医学部の教職員が、カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発などを行うために「MEDC」をさらに活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の卒前卒後のシームレスな医学教育や最新の医療者教育の概念や知見を MEDC の教員により、紹介され導入されている。さらに MEDC が主催する様々なセミナーに教員が参加できる体制となっている。

様々な改革ワーキンググループに MEDC 教員が参画している。

学内においても教育に関しての相談窓口となっている。

医師育成推進センターの教員も MEDC の教員にアドバイスを依頼して、研修プログラムの改革を行っている。

医療者教育スターターキットを MEDC で開発し、各種教育の最新情報を FD として提供できるシステムを確立しつつある。

医療者教育医学修士課程の授業を一部教員に公開し情報共有できる体制を作りつつある。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 5-1 2023 年度医学教育開発研究センター年報（抜粋）

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ カナダ マギル大学への指導医研修派遣や、海外客員教授や招聘教授によるセミナーなどを通じて最新の医学教育専門知識の導入を行っていることは高く評価できる。
- ・ 「MEDC」が国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の実務を担って事務職員の教育活動を支援していることは高く評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療医学センターと医学教育開発研究センターにより、カナダ・マギル大学に 11 月に岐阜県下の大学教員を含む指導医 9 名を派遣し研修に参加させた。また伝達講習を通じてその情報の普及に努めた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-2 海外臨床教育 F D 実施要項（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-3 海外臨床教育 F D 参加者名簿（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-4 海外臨床教育 F D 実施報告書（マギル大学）

6.6 教育の交流

基本的水準

特色ある点

- ・ カナダ マギル大学との大学間協定、ハワイ大学および南フロリダ大学との協定を締結し、海外実習の単位認定を行うなど、海外大学と国際的な交流を行っていることは評価できる。
- ・ 「MEDC」は医学教育共同利用拠点として全国の医学部・医科大学と連携を図っている。

改善のための助言

- ・ 東海国立大学機構など国内教育機関において履修単位の互換制度を検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍が収束し、中断していたマギル大学及び南フロリダ大学との教育連携事業が再開された。

東海国立大学医学部連携ワーキンググループを設立し、1～2 か月に一度会議を設け意見交換をする体制を整えた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-5 南フロリダ大学出張報告
- ・ 資料 B6. 6-1 海外臨床実習参加者
- ・ 資料 Q2. 2-1 東海国立大学連携WG担当者一覧

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学生および教員の海外機関への派遣に際し、ガイドンスブックを作成したり、助成を行うなど、医学部として支援している。

改善のための示唆

- ・ 臨床実習以外の国内外交流プログラムについても拡充させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

マギル大学へ本学教員 7 名、南フロリダ大学へ 6 名を派遣し、交流事業を再開した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-2 海外臨床教育FD実施要項（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-3 海外臨床教育FD参加者名簿（マギル大学）

- ・ 資料 B5. 2-4 海外臨床教育 F D 実施報告書（マギル大学）
- ・ 資料 B5. 2-5 南フロリダ大学出張報告

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特色ある点

- ・ 2016 年度に医学教育 IR 室が設置され、活動を開始している。

改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を独立して実施する組織を速やかに設置し、活動を開始すべきである。
- ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩について教育プログラムの評価を実施し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

企画委員会や教授会議で話題に上がった 1 年次の共通科目履修の支援体制の不十分さに関して、プログラム委員会で精査し改善案を提示し承認を得ることができるような活動を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B7. 1-1 第 2 回医学科教育プログラム評価委員会報告

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特色ある点

- ・ テュートリアル教育について教職員ならびに学生に系統的なアンケートが実施され改変が行われた。

改善のための助言

- ・ 教員と学生から教育プログラム全体についてのフィードバックを系統的に求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生自治会との懇談会を開催し意見を吸収するよう努めた。

プログラム評価委員会を設立した。テュートリアル教育の評価について再検討す

る予定である。

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特色ある点

- ・ 医師国家試験の成績と学生の実績との関連について、医学教育 IR 室によって種々のデータ解析が行われている。

改善のための助言

- ・ 使命と意図した学修成果に関して、学生の実績を分析すべきである。
- ・ 進路を含め卒業後の実績について、さらにデータを収集すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR 室データより、地域枠入学者の成績は一般入学者と比較して有意に良好であり、地域枠入学定員の維持につながっている。

地域医療医学センターにおいて地域医療に貢献する人材育成の使命に IR 室データを活用し、アドバイスしている。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学生の実績を評価し、入試制度の変更が行われた。

改善のための助言

- ・ 背景と状況ならびに入学時成績に関して、卒業生の実績を系統的に調査し分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績を系統的に分析し、カリキュラム立案ならびに学生カウンセリングについて責任のある委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生のデータを反映して入試改革が行われている。後期試験が廃止され、推薦入試の比率を上昇させた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q7.3-1 入学試験委員会報告（入学者選抜の変更）

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を行う組織を設置し、学生や教職員など教育に関わる主要な構成者の参画を求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会を運営し委員会開催時以外にも密にコミュニケーションをとり、機能するよう努めている。学生自治会との連結を議論した。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 医学教育 IR 室における解析結果を学会等で報告している。

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、カリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に関連病院の指導医等を加え、カリキュラムに対する意見を求める予定である。

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関わる各委員会に、学生、教職員およびその他の教育の関係者の意見を反映させる体制を整えることが望まれる。
- ・ 統轄業務とその決定事項について、より透明性を高めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に続き、令和 4 年度に新たに立ち上げた「教育プログラム評価委員会」に医学科学生（または卒業生）1 名を正規の構成員とすることとし、教育プログラムの自己点検評価の過程においても彼らからの意見や提案を聴取できる体制を整えた。

8.4 事務と運営

基本的水準

特色ある点

- ・ 「医学教育開発研究センター（MEDC）」が e-ラーニングで学修できる「医療者教育スターターキット」を開発し、教職員に対して教学関連の活動を支援していることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

東海国立大学機構となり、名古屋大学との教育連携交流、OSCE 事務補助の相互交流を開始している。

東海国立大学機構医学部教育連携ワーキンググループが隔月で開催されており、科目連携・OSCE 連携・ICT 利活用・IR 活動・地域医療学・アンプロフェッショナル学生の対応について意見交換の場を設けている。

医療者教育スターターキットの周知と学務係への部分的導入を進めた。

自己学習用の e-learning 医療者教育スターターキットの教職員全体への導入が期待される。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 5-1 2023 年度医学教育開発研究センター年報（抜粋）

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特色ある点

- ・ 「地域医療医学センター（CRM）」が設置され、地域との連携活動を活発に行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療医学センター内のコンソーシアム事務局において毎月第 2 水曜日午後
岐阜県庁担当者と定期ミーティングにて情報共有している。

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」を通じて保健医療関連部門のパートナーとの協働を構築している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療医学センター内にコンソーシアム事務局が設置され、各医療施設や行政機関との連携が密となっている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2.8-3 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムに関する設置要綱

9. 継続的改良

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 2015 年度の医学教育分野別評価受審の際に提出された「自己点検評価報告書」に記載されている「C. 現状への対応」、「D. 改善に向けた計画」が今回の「自己点検評価書」においても同じ内容が随所で繰り返されており、指摘された課題について十分な対応が行われていない。継続的改良を進めるために、可及的速やかに改善を進めるべきである。
- ・ 教務厚生委員会、カリキュラム委員会とは独立した教育プログラム評価を行う体制を構築し、自己点検評価結果に基づく継続的改良を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム評価委員会を設置した。自己点検評価結果及びカリキュラム・医学

教育改編を前提としたアンケートを準備すべく他大学の事例など情報収集した。

医学部カリキュラムや教育の改革を前提として教員の現状アンケートなどを実施する予定である。